

「公開」による事業仕分けの実施

埼玉県 久喜市

人口：71,352人

面積：25.35km²

担当部署：改革推進課

概要

事務事業の在り方を改めて考え、事務事業の再編・整理・廃止・統合を進め、現在取り組んでいる行政評価システムとあわせて、更なる行政改革を推進するため、「事業仕分け」を公開の下で実施した。

実施日 平成19年11月3日（土曜日）、4日（日曜日）の2日間

対象事業 44事業

選定理由

（埼玉県コメント）

財政状況の厳しい中、市町村にとって事業の必要性等の検討は喫緊の課題であり、県においても昨年度に研修会を実施するなど、事業を見直すための1つの手法として市町村に紹介しているところである。

そのような中、公開のもと事業仕分けが行われ、実施後は、他自治体より事業仕分けに関する多数の問い合わせを受けたり、視察の受け入れをしたりするなど、事業の在り方を考える際の先進事例となっている点やアンケートから地域の住民等への啓発にもなっている点で高く評価している。



事業仕分けの様子

背景

久喜市の財政状況は、国庫補助負担金の一般財源化、地方交付税の大幅な減少など歳入確保が困難な状況にあり、歳出面においては、社会保障関係費の扶助費等や償還金にあてる公債費などの義務的経費が増加するとともに老朽化した施設の改修や改築、幹線道路の整備など多額な経費を要し、大幅な財源不足が生じ、厳しい状況に置かれている。

このような危機的な状況を回避するためには、現在、取り組んでいる行政評価システムと併せて、更なる行政改革を推進する観点から外部評価員の視点による事業仕分けを実施し、事務事業の再編・整理、廃止・統合を進め、事務事業の効率性や有効性を更に検証することにした。

具体的内容

実施時期	平成19年11月3日(土)・4日(日)		
	実施日両日とも午前9時～午後5時まで		
対象事業	44事業		
作業体制	1) 事業説明者	…	事業担当市職員(1事業2名以内)
	2) オブザーバー	…	事業所管部長及び課長
	3) 評価者	…	他自治体職員ほか 各班3名 公募による市民 各班2名
	4) ヒアリング進行	…	構想日本スタッフ
	<u>※実施日両日ともに2班体制でヒアリングを実施。</u>		

「事業仕分け」の種類	…	1 不要
		2 民間が行うべき事業
		3 国・県・広域
		4 引き続き久喜市が実施(要改善)
		5 引き続き久喜市が実施(現行どおり)

作業の流れ

- ①事業説明…事業概要説明資料に基づき、事業説明者(事業担当職員2名以内)説明を行う。
また、オブザーバー(事業所管部長及び課長)は、事業説明の補足等を行う。
 - ②質疑応答…評価者からの質疑に対して、事業説明者及びオブザーバーが応答にあたる。
 - ③評価…評価者は、「事業評価シート」に仕分けの種類、仕分けした理由、その他のコメントを記入。また、最終評価は、評価者5名による多数決で評価を行う。
- ※ 評価に要する時間は、1事業につき30分程度で終結する。

取組中の課題・問題点

- ・ 事業仕分けの対象とする事務事業の選定が難しかった。
- ・ 事業仕分けの方法に対する、説明者（事業担当者）の理解が不十分であった。
→ 事前説明会でデモを行ったが、他市が実施した事業仕分けのビデオを上映するなど、事業仕分けの方法に対して、説明者（事業担当者）へもっと理解させる必要があったと思われる。

工夫点

- ・ 評価員に他自治体職員の外部評価員だけでなく、公募による市民評価員を加えた。
- ・ 事業仕分けの際に使用する事務事業の概要調書については、現在行っている久喜市の事務事業評価シートを活用し、なるべく職員の事務負担の軽減を図った。

効果

事務事業の削減については十分な成果を得ることができなかったが、久喜市事業仕分け作業を通じて、公開の場での事業概要の説明、質疑応答、評価者の意見等を通して、普段の仕事に対する考え方や市民に対する説明責任の重要性など、担当した職員が仕事の意義や有効性について、大いに意識改革を図ることができた。

事業仕分け実施後の事業の見直しによる効果額17,221,385円

区 分	事業仕分け 作業評価結果	市の方針
(1) 不 要	2	0
(2) 民 間	8	0
(3) 国・県・広域	1	0
(4) 市（要改善）	27	29
(5) 市（現行どおり）	6	14
※ 休 止		1
合 計	44	44

住民（職員）の反応・評価

【傍聴者の意見】

アンケート結果（回答80人・未記入の場合あり）は、

- ①良かった(47人) ②やや良かった(14人) ③どちらでもない(5人)
④やや悪かった(7人) ⑤悪かった(3人)

傍聴者は、事業仕分け作業を傍聴してよかったという意見が多かった。

【職員の反応】

「他市の職員の意見が聞けて参考になった」という意見があった一方で、「財政規模や事業を実施している背景も異なる外部評価員が評価するのはいかなるものか」という意見もあった。

フォローアップ

- ・ 事業仕分け実施後、久喜市行政改革推進本部会議（庁内会議）を2回開催し、仕分け結果に対する市の方針を決定した。
- ・ 事業仕分けの実施結果に対する市の方針について、議会の全員協議会において報告した。
- ・ 市民への公表については、平成20年2月1日号の広報くきへの掲載と市のホームページで実施した。
- ・ 事業仕分けの結果だけを公表すると、「事業仕分けの結果」＝「市の方針」との誤解を招く恐れがあったため、市の方針が決定してから公表した。
- ・ 平成20年10月に、事業仕分けの実施結果に対するその後の対応状況について、関係課に照会し、その結果を取りまとめた。

今後の課題

事業仕分けは、行財政改革を一層充実したものにするための評価手法の一つであると考えられるが、まだ「事業仕分け」そのものが完成したものではなく、発展途中であると思われる。事業仕分けの評価結果のみで、事務事業の廃止・見直し等を行うことは難しいと思われるので、事業仕分けの評価結果を、事務事業の見直し等にいかに活用するのが今後の課題と考える。

今後取り組む自治体に向けた助言

事業仕分けの対象とする事務事業の選定が難しかった。どのように事務事業の選定をするのか、事業仕分けの対象とする事務事業の選定が重要であると考えられる。

アドレス

<http://www.city.kuki.saitama.jp/info/kaikaku/siwake/index.html>